

第一問 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

「春に」 谷川 俊太郎

この気もちはなんだろう

目に見えないエネルギーの流れが

大地からあしのうらを伝わって

ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ

声にならないさけびとなってこみあげる

この気もちはなんだろう

枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく

(1) よろこびだ しかしかなしみでもある

いらだちだ しかもやすらぎがある

あこがれだ そしていかりがかくれている

(2) 心のダムにせきとめられ

よどみ渦まきせめぎあい

いまあふれようとす

この気もちはなんだろう

あの空のあの青に手をひたしたい

まだ会ったことのないすべての人と

会ってみたい話してみたい

あしたとあさつてが一度にくるといい

(3) ぼくはもどかしい

地平線のかなたへと歩きつづけたい

そのくせこの草の上でじっとしていたい

大声でだれかを呼びたい

そのくせひとり黙っていたい

この気もちはなんだろう

問一 この詩は、文体や形式上、何詩に分類されますか。漢字五字で書きなさい。(3点)

問二 この詩の中で、「春」という季節によって、心が刺激されることを描いている一行を探し、はじめの四字を書き抜きなさい。(3点)

問三 傍線部(1)「よろこびだ しかしかなしみでもある」とありますが、このような表現技法をなんといいいますか。漢字で答えなさい。(3点)

問四 傍線部(2)「心のダム」について、次の①・②の問いに答えなさい。(各3点)

① 「心のダム」という表現は、次のどの比喩に当たりますか。次から一つ選びなさい

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法

② この比喩表現はどのような様子を表していますか。次から一つ選びなさい。

ア あふれ出す感情が、解き放たれている様子。

イ あふれ出しそうな感情を、抑え込んでいる様子。

ウ 自分の心が揺るぎなく、かたくなな様子。

エ 自分の心に柔軟性があり、やわらかな様子。

問五 傍線部(3)「ぼくはもどかしい」とありますが、心の中にどんな気もちがあるからですか。次から一つ選びなさい。(3点)

ア 前進したい気もちと、踏み出すことへの不安の気もち。

イ 明日に期待する気もちと、今日に絶望している気もち。

ウ 孤独を楽しみたい気もちと、温かさに触れたい気もち。

エ 自分を信じたい気もちと、自分を信じられない気もち。

問六 「この気もちはなんだろう」という表現から感じ取れる作者の思いとして、最も適切なものを次から一つ選びなさい。(3点)

ア 本当は答えを見つけているのだが、本心を隠している。

イ どうしてよいのか全くわからず、投げやりになっている。

ウ うまく言葉にできない、いろいろな思いにとまどっている。

エ みんな同じ悩みをもって過ごしている事実を訴えている。

第二問 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

『立ってくる春』 川上弘美

「もう春ですよ、ひろみちゃん。」と祖母に言われ、(1)驚いた。
昭和半ばの東京、二月初旬。一昨日は雪が降った。出したばかりの十一月ごろには重いと思っていた布団のその重さが嬉しく、いつまでも朝は布団から出られなかった。つまさをもう暖かくないゆたんぼを包むネルの布に、ぐずぐずとくつつけていた。

ようやく布団から出て、長袖のシャツを着て、ブラウスを着て、セーターを着ても、ちっとも暖かくならない。木造の家は隙間だらけで、このごろの気密性のある家のように、窓に結露を見ることもない。外と中の温度がさほど変わらないので、結露しないのである。吐く息が白い。顔を洗いながら、外国のお姫さまはきつと毎日お湯で洗顔してるんだらうなあ、などと考える。

私は、日本の小学生で、タイツの膝にはつぎが当たっていて(ひどく貧しいから、というのではない、あのころはストッキングだつていちいち伝線をかがっていたものだった)、指先にはしもやけがあつて、宝物は箱根みやげの千代紙貼りの入れ子の箱とタミー人形(着せ替え用の服は高価なので、母が見よう見まねで二着ほど縫ってくれた)、というごく普通の子どもだった。

「(2) 今日から春ですよ。」もう一度、祖母が言った。

「でもまだ冬なのに。」私は口をとがらして答えた。霜柱はつんつん立っていたし、その朝も水道管が凍った。あおあおとしているのはつわぶきの葉とアオキばかりで、楓も樺も桜も柿もすっかり葉を落としてしんとしていた。寒暖計の赤は下の方にわだかまり、ぜんぜん上がってこない。

「でも、暦の上では、ほら。立春ですよ。」

「(3) りっしゅん。」

「春が立つ、春になるっていうことですよ。」

祖母の部屋には日めくりの暦が下げてあった。暦には、二月四日、木曜、立春、の字が並んでいた。

「春って、立つの。」

「立ちますよ。」そう言って、祖母は真面目に頷いた。以来私は、春は立つものだと思うようになったのである。

立つ春とは、どんなものなのだろう。学校へのみちみち、考えた。

人間のかたちをしたものでは、なからう。空気のようなものか。でも空気は目に見えない。「立つ」と感じるからには、目に見えなくては。本の中にある竜や鬼や妖怪に似た、この世のものではない生き物のかたちをしたものか。それも違う、春はもつと柔らかかでのほほんとしているから、火を吐いたり金棒をふるったりするものたちの類いではあるまい。春とは、

こまかな生氣あるものに満ちた、盛り上がるようなものだ。それならば、歩きながら、晴れた冷たい空気の中に見える遠い富士を眺めつつ、(4) 私は「立ってくる春」のかたちを、決めた。

立ってくる春とは、さまざま小さい生き物でみっしり埋めつくされた一枚の絵のようなものにちがいない。その春が、地平線の向こうにゆっくり上がってくる。最初のころは端っただけしか地平線近くに見えていないが、太陽がのぼるように、日々次第に高くのぼってゆく。そして四月ともなれば、すっかり全天を覆うようになるのである。

これだけのことを決め、ようやく私は満足した。よしよし。謎は解けた。なるほど春は立つものである。まだあんまり見えないけれど、たしかに、今日、ずっと向こうのあの山のあたりに、春が立った。うんうん。

(5) 勝手に解かれてしまった「春が立つ」謎は、今にいたるまで、じつは私の中に居つづけている。現在も、立春という言葉や葉を聞くと、反射的に、水平線からゆっくりと立ち上がってくる霧のような絵を思い浮かべるのである。

(6) まだまだ寒い、しかしじきに、春である。

問一 傍線部(1)「驚いた。」とありますが、筆者はなぜ驚いたのですか。三十字以内で書きなさい。(4点)

問二 傍線部(2)「今日から春ですよ。」とありますが、祖母が「今日から春」というのはどうしてですか。次から一つ選びなさい。(3点)

- ア 室内と外との温度がさほど変わらないから。
- イ つわぶきの葉とアオキがあおおとしていいるから。
- ウ 暦の上では立春といって、春になる日だから。
- エ ようやく気温が上がり、春らしくなったから。

問三 傍線部(3)「りっしゅん。」とありますが、あえて平仮名で書いたのはどんなことを表すためですか。次から一つ選びなさい。(3点)

- ア もう「立春」を迎えたという祖母の言葉を、「私」が信じられなかったこと。
- イ まだ小学生で「立春」という言葉の意味を知らず、漢字が分からなかったこと。
- ウ 「立春」を迎えたことに驚くあまり、祖母の言葉を繰り返すしかなかったこと。
- エ 本当は「立春」の意味を知っているが、わざと知らないふりをしていること。

問四 傍線部(4)「私は『立ってくる春』のかたちを、決めた。」とありますが、筆者が決めた『立ってくる春』のかたち」とはどのようなものですか。三十五字以内で探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。(3点)

問五 傍線部(5)「勝手に解かれてしまった『春が立つ』謎は、今にいたるまで、じつは私の中に居つづけている」とありますが、どういうことですか。「立春」「絵」という二語を使って「〜」ということ。」につながるよう、四十字以内で書きなさい。(4点)

問六 傍線部(6)「まだまだ寒い、しかしじきに、春である」とありますが、この文から読み取れる「私」の心情として適切なものを次から一つ選びなさい。(3点)

- ア 霧がかかって春の姿がよく見えないことをじれったく感じている。
- イ 春が立つ様子を思い浮かべて、春の到来を予感している。
- ウ あまりにも寒いので、反射的に春の訪れを願っている。
- エ 「春が立つ」謎の答えを、いまだに考え続けている。

第三問 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

「なぜ物語が必要なのか」

小川 洋子

小説を書いていると、時おり、不思議に思うことがあります。なぜ人は繰り返し物語を生み出し続けているのだろうか。言葉、というものを獲得した人間が、初めてお話を語り始めた時、そこで何が起こったのだろうか。〈略〉

神話の時代から人間は物語とともに生きてきました。人が生きている限り、物語の歴史が途切れたことはありません。理屈では説明のつかない理不尽、いくら求めても答えの出ない（A）、人間の力を超越した（B）、言葉など必要としない圧倒的な（C）……。そうしたもろもろを物語の形に変え、自分なりに受け止めることで、困難の多い人生を少しでも実り豊かなものにしようとしてきたのだと思います。いくら辻褄が合わなくても、奇想天外でも、物語の器は黙って受け止めてくれます。辛抱強く、魂の混沌に寄り添ってくれるのです。

（1）苦しい現実を受け入れるための、物語の役割について考える時、ある一人の青年を思い出します。「犠牲（サクリファイイス）わが息子・脳死の二日」（柳田邦男著）に登場する洋二郎さんです。文学を愛する感受性豊かな洋二郎さんは、精神の病に苦しみながらも、懸命に生きるための光を見いだそうとします。ある日の日記にこう記しています。

7

……ぼくは行きの電車で、孤独な自分を励ますかのように、「樹木」が人為的な創造物の間から「まだいるからね」と声を発するかのようになり、その緑の光を世界に向け発しているのを感じた。

どこにも居場所を見つけれられず、不安に押しつぶされそうになっている青年が、電車の窓に映る樹木と声にならない声で会話を交わしている。言葉を持たないものの声によって自らを励ましている。

その様子を想像するだけで胸がいっぱいになります。洋二郎さんの心の内には、彼だけの物語が生み出されていたはずで、彼と現実をつなぎとめるために、どうしても必要な物語だったのでしょう。

残念ながら洋二郎さんは自ら命を絶ってしまいます。脳死状態だった十一日間、父の柳田さんはベッドサイドで息子の日記を読み、樹木との会話の一節に、涙が止まらなくなり、それはこれまで理解してやる事ができなかった、息子の苦しみの真実にふれる体験でした。洋二郎さんの物語が、死者と生者に別れた親子を、つないだのです。

さて、私に初めて物語の力を教えてくれたのは、中学生の時に出会った「アンネの日記」でした。ナチス・ドイツに占領されたオランダで、アンネ・フランクは十三歳の誕生日に、父オットーから赤い格子模様の日記帳をプレゼントされます。ほどなく、ユダヤ人狩りから

逃れるため、家族とともにアムステルダム市内の中心部にある隠れ家へ身を潜めたアンネは、密告により強制収容所へ送られるまでの二年あまり、そこで日記を書き続けることになります。

当然ながら、隠れ家での生活は不自由なものでした。学校へ通うことはおろか、外へ出ることさえできず、昼間は分厚いカーテンを引いて、物音を立てないようにしなければいけません。限られた空間での、まさに息のつまるような毎日です。しかも発見されれば命の危険にさらされるといふ恐怖が、常につきまとっていました。

そうした状況で書かれたアンネの日記は、普通の日記とは少し異なっていました。単に毎日の出来事を記すのではなく、感情を書きなぐるのでもなく、架空の友人、キティーに宛てた手紙として、自らの思いを綴るのです。

アンネは現実には存在しない人物を創造し、日記の中で彼女と会話を交わします。まるでキティーからの返事を受け取ったかのような気持ちで、新たなページを自分の言葉で埋めてゆきます。母親への不満、支援者への感謝、ペーターへの恋心、死の恐怖、将来の夢……。胸にわき上がってくる全てを、キティーに語ります。

窮屈な生活の中、日記帳を開いている間だけは、思う存分、自由を味わうことができました。隠れ家に閉じ込められたアンネにとって、キティーのいる物語は、果てしない自由の世界そのものでした。

日記を読んだ時、書くことがこんなにも人の心を解き放つのかと、私は衝撃を受けました。書くという方法を使えば、自分も自由を得られるのだ。そう思い、早速、大学ノートを買ってきました。それが作家の原点になったと言えるでしょう。

私は彼女がキティーに語りかけたのを真似し、アンネに向かって悩みを打ち明けられるように、友達関係の難しさや両親とのいざこざを、大学ノートに書きはじめました。時代も立場も飛び越えて、同世代の悩みを共有している気分でした。彼女との間に交わした空想の友情が、どれほど私の救いになってくれたか知れませ

十三歳から十五歳まで、隠れ家生活にあっても、アンネはフランクの心は成長してゆきました。ただ反抗心をむき出しにするばかりでなく、こうありたいと願う自分の、本来の姿を静かに模索するようになっていました。たとえ肉体は狭い場所に閉じ込められていようと、心はどこまでも豊かに深まってゆくのです。その事実を、アンネの日記は証明しています。〈略〉

樹木の声を聴いた洋二郎さん、空想の友人と会話したアンネ。二人とも(2)自分だけの物語を作った、という意味で共通しているように思えます。論理的ではない、理性では説明できない世界が、彼らの安全地帯になっています。更に不思議なのは、最初は彼らだけの物語だったものが、時を経て、無関係なはずの私にも深い感動をもたらしている、ということ。物語には時空を超え、人の心をつなぐ役割があるのでしょうか。だからこそ、個人の物語は文学へと生まれ変われるのです。

物語は作家だけが書いているわけではありません。本当に大切な真実は、混沌とした内面の

暗闇に沈んでいます。その目に見えない何かに光を当てる一つの方法が、物語に身を置くことなのだと思えます。底知れない自由と許しを持つ物語という器を持ってさえいけば、人間は魂を解放することができます。他者の物語にふれば、どんなに立場が異なっても、その人の心に深く寄り添えます。

人間は誰しも、自分の物語を作りながら生きています。そうでなければ、生きてゆけないのです。

問一 本文中の空欄（A）（C）に当てはまる語の組み合わせとして最も適切なものを、次から一つ選び答えなさい。（3点）

- ア A 疑問 B 自然 C 感動
- イ A 疑問 B 感動 C 自然
- ウ A 自然 B 感動 C 疑問
- エ A 自然 B 疑問 C 感動

問二 傍線部（1）「苦しい現実を受け入れるための、物語の役割」とありますが、『犠牲（サクリファイス）わが息子・脳死の二日』の内容を踏まえて、筆者は、洋二郎さんと父親の柳田さんにとって物語はどのような役割があったと考えていますか。八十字以内で説明しなさい。（4点）

問三 『アンネの日記』から筆者が感じた「物語を書く」ことの効果とはどのようなものですか。「心」「自由」という二語を使って二十字以内で書きなさい。（4点）

問四 傍線部（2）「自分だけの物語」とありますが、それは洋二郎さんとアンネにとって、どんなものであったと筆者は表現していますか。四字で書き抜きなさい。（3点）

問五 「物語」には、読者に対してどのような役割があると筆者は言っていますか。次から二つ選び答えなさい。（完答3点）

- ア 書き手である他者の心に深く寄り添わせる役割。
- イ つらい現実で生きるための安全地帯をつくる役割。
- ウ 論理的でなく理性で説明できない世界をつくる役割。
- エ 時空や立場の違いを超えて人の心をつなぐ役割。
- オ 内面の暗闇から魂を解放し、自由にする役割。

第四問 次の各問に答えなさい。(各2点)

問一 次の傍線部の品詞名を答えなさい。

- ① 花が咲かない。
- ② 台風が近づいている。

問二 次の傍線部の助詞の種類を選択肢から選んで答えなさい。

- ① 眠いので、早く寝た。
- ② 金魚やメダカを買う。
- ③ 医者でさえ判断が難しい病気だ。

【ア 格助詞 イ 副助詞 ウ 接続助詞 エ 終助詞】

第五問

次の傍線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。(各2点)
なお、送り仮名を必要とする字は送り仮名も書くこと。

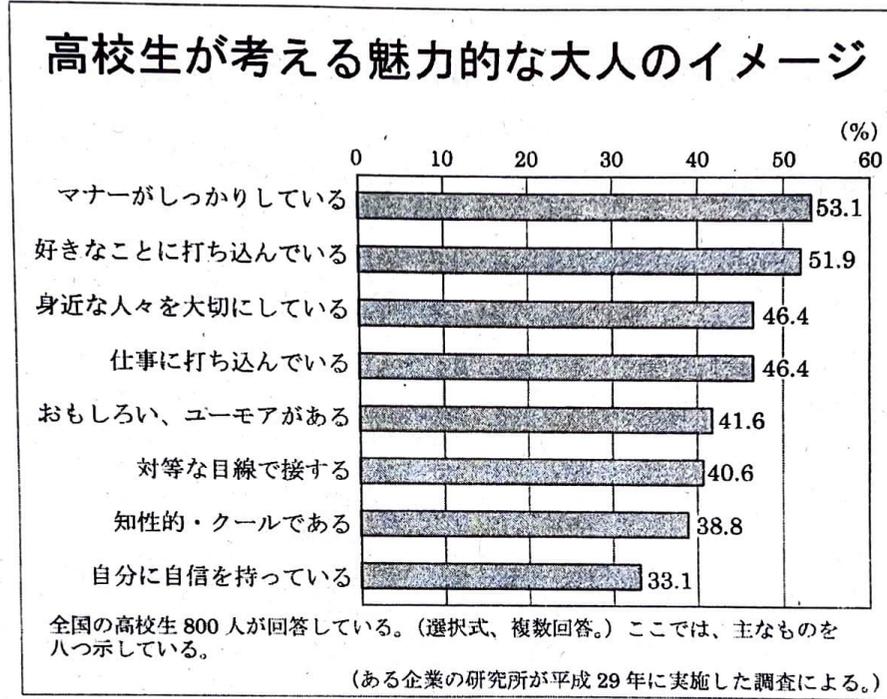
- ① 疑問をタズネル。
- ② 深いキョウコク。
- ③ 知識のカクトク。
- ④ 深いオジギをする。
- ⑤ トクシユな技術。
- ⑥ モツバラの聞き役。
- ⑦ 命令にソムク。
- ⑧ 予約を承る。
- ⑨ 出納帳の確認。
- ⑩ 血眼になる。

第六問

次の資料は、「高校生が考える魅力的な大人のイメージ」について、全国の高校生を対象に調査し、その結果をまとめたものです。

国語の授業で、この資料をもとに「魅力的な大人のイメージ」について、一人一人が自分の考えを文章にまとめることにしました。あとの（注意）に従ってあなたの考えを書きなさい。

資料



(注意)

- (1) 二段落構成にし、第一段落では、あなたが資料から読み取った内容を、第二段落では、第一段落の内容に関連させて、自分の体験(見たこと聞いたことなども含む)をふまえてあなたの考えを書くこと。
- (2) 文章は、十一行以上、十三行以内で書くこと。
- (3) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。
- (4) 題名・氏名は書かないで、一行目から本文を書くこと。

思・判・表
知識・技能

/20	
第五問	
⑥	①
専ら	尋ねる
⑦	②
背く	峡谷
⑧	③
うけたまわる	獲得
⑨	④
すいとうちょう	お辞儀
⑩	⑤
ちまなこ	特殊

/10	
第四問	
問二	問一
①	①
ウ	助動詞
②	②
ア	助詞
③	③
イ	助詞

/17						
第三問						
問四	問三	問二			問一	
安	心	と	つ	め	洋	ア
全	を	つ	て	る	二	
地	解	な	は	た	郎	
帯	き	げ	め	さ		
問五	放	る	死	の	ん	
ア	ち	役	ん	役	に	
エ		割	で	割	と	
	自	が	し	が	つ	
	由	あ	ま	あ	て	
	を	つ	つ	り	は	
	味	た	た		自	
	わ	息	父	分		
	わ	子	親	を		
	せ	の	の	現		
	る	苦	柳	実		
	効	し	田	と		
	果	み	さ	つ		
		の	ん	な		
		真	に	ぎ		
		実	と	と		

/20					
第二問					
問六	問五	問四	問二	問一	
イ	立	今	初め	わ	ま
	ち	で	さ	れ	だ
	上	も	ま	た	外
	が	立	ざ	か	は
	る	春	ま	ら	と
	露	と	な		て
	の	い	あり		も
	よ	う	よ		寒
	う	言	う		い
	な	葉	な		の
	絵	を	も		に
	を	聞	の		祖
	思	く			母
	い	と			に
	浮				も
	か	水			う
	べ	平			春
	る	線			だ
		か			と
		ら			い

/21	
第一問	
問四	問一
①	口
イ	語
②	自
イ	由
問五	詩
ア	問二
問六	枝
ウ	の
	先
	の
	問三
	対句

組 番氏名 ()